

## 5. 日本とアラブ・マグレブ諸国との経済関係に関する調査研究

### イ. 調査の目的

アルジェリア、チュニジア、モーリタリア、モロッコ、リビアから構成されるアラブ・マグレブ連合諸国は、アルジェリア、リビアが産油国として、その他の国々が主に EU からの投資受け入れ国、EU への輸出基地として近年注目を浴びている。

一方、我が国とこれら諸国との経済関係をみると、貿易、直接投資ともまだまだ低い水準にとどまっているのが現状である。

そこで、本調査では日本とこれら諸国との貿易・投資の現状、進出日系企業の活動状況などを調べ、経済交流拡大の可能性、FTA 締結の可能性を探るものとする。

### ロ. 調査結果の概要

- ・日本とアラブ・マグレブ諸国との貿易は 2006 年に輸出入合計で約 15 億ドル。
- ・現地調査を行ってみると、貿易統計には表れない商品の動きがあることが判明。
- ・日本メーカーの輸出では、自動車の海外生産車のマグレブ諸国への輸出が多い。
- ・日本の輸入では、マグレブ諸国側の輸出統計には記載されない輸出商品がある。いわゆるブランドもののアパレル製品がそれであり、これらの製品はいったんイタリア、スペインに輸出され、そこからさらに日本に輸出されるため、マグレブ諸国の対日輸出統計には出てこない。
- ・日本からの直接投資も少ないが、現地調査で日本の投資統計に出てこない投資案件があることが判明。すなわち、日系欧州本社企業からのマグレブへの投資や、マグレブにある欧州系企業の買収などである。
- ・アラブ・マグレブ諸国には、地理的・歴史的な経緯から南欧州からの投資が多く、近年は原油高を背景にアラブ諸国からの投資も増大。
- ・日本からの投資は、資源開発、ファスナーなどのほかは自動車部品が主。
- ・同地域は中東欧に続く、EU への輸出基地となる可能性も。
- ・日本とアラブ・マグレブ諸国の経済緊密化のためには今後とも対話が必要。